

那珂川水系におけるヤマメ・サクラマス釣獲状況（平成30年度）

石川孝典・横塚哲也

目的

那珂川水系ではヤマメ（川で一生を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが盛んであるが、釣獲時期や大きさなどの実態は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、釣果情報を収集し、那珂川水系におけるヤマメ・サクラマスの釣獲実態を調査した。

方法

2018年シーズン中（3月1日から9月19日）における那珂川の水産資源とサクラマスの釣果情報を収集および整理した。¹⁾

結果および考察

ヤマメとサクラマスの釣獲尾数 2018年は21名の釣り人から38尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが73.7%（28尾）、サクラマスが26.3%（10尾）であった（図1）。また、全長31cm以上の個体（22尾）に占めるヤマメの割合は54.5%（19尾）、サクラマスの割合は45.5%（10尾）であった。サクラマスの最大個体は46cmであった。また、全長63cmのヤマメの報告があったが、ヤマメであるとは考えにくいため、釣獲魚の写真を添付するなど報告システムの改善が必要であると考えられる。

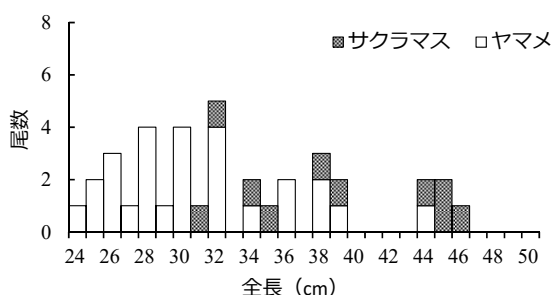


図1 ヤマメとサクラマスの釣獲尾数

ヤマメとサクラマスの釣獲時期 ヤマメは3月下旬から9月中旬まで釣獲され、シーズン後半に大型個体が釣獲される傾向が確認された（図2）。一方、サクラマスは6月中旬から7月中旬に釣獲される個体が多かった（図2）。

釣り方別釣果とリリース状況 報告のあった21名の釣り人のうち19名がルアーで32尾を、2名が餌に

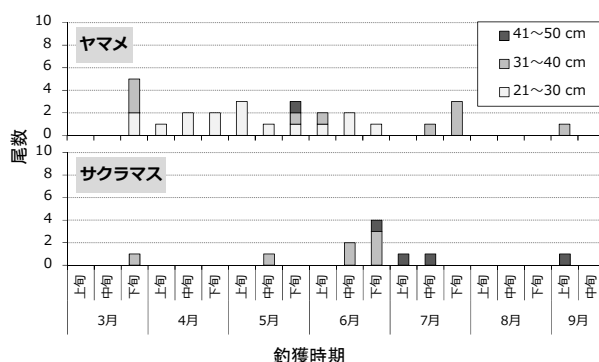


図2 ヤマメとサクラマスの釣獲時期

より6尾を釣獲していた。釣獲魚のリリースは、ルアーによる釣り人19名のうち11名が、餌による釣り人2名のうち1名が実施しており、昨年と同様にルアーによる釣り人は餌による釣り人よりも釣獲魚をリリースする傾向が強かった。

那珂川におけるヤマメおよびサクラマスの資源状況が釣獲状況から断片的に把握できるようになった。しかし、依然としてサクラマスはヤマメに比べてその資源に関する情報量が少ない。釣獲方法やリリースの状況などの利用実態も含め、今後も遊漁者からの情報提供に基づく調査を継続する必要があると考えられる。

引用文献

- 1) 網川孝俊・横塚哲也. 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲状況（平成29年度）. 栃木県水産試験場研究報告. 2019; 62: 43-44.

（指導環境室）